

平成 30 年度第 1 回 あま市地域公共交通会議議事録要旨

平成 30 年 10 月 30 日（火）
午後 3 時から午後 5 時まで
美和総合福祉センターすみれの里
2階 集会室

1 出席者等

出席者等（委員） 15 名
（事務局） 6 名
（傍聴者） 5 名

2 報告事項

【主な質疑等】

（座長） 今年度は、台風の影響でいろんな自治体のコミュニティバスが運休となった。対応は自治体ごとに異なっていると感じていたが、ウェブサイトへ即時掲載する対応は初めて聞いた。他自治体だと更新にタイムラグがあり、すぐには掲載できなかつたと聞くが、あま市の場合はダイレクトで掲載できる仕組みとなっているか。

（事務局） ウェブサイトの担当課が企画政策課であり、ダイレクトで情報発信できた。また、台風 21 号が接近したのが火曜日であり勤務日ということもあり、職員がすぐ対応できた。また、台風 24 号は日曜日に接近したが、予め対応できる体制をとっていたので、スムーズに対応することができた。

3 議題

- （1）利用状況について
- （2）あま市巡回バスのあり方を定める指標の決定について
- （3）あま市巡回バス試行運行に関するアンケート（素案）について

【主な質疑等】

- （1）利用状況について

（委員） 南部巡回ルートに比べて、東部巡回ルートの利用が少ない。利用促進策があれば、お聞きしたい。運行曜日を火曜日、金曜日、日曜日にした理由を簡単に教えてほしい。

（事務局） 東部巡回ルートは利用者数が大変少ない路線となっている。その中で、甚目寺駅と七宝焼アートヴィレッジの区間の利用者数が多く、その他区

間は利用者が少ない。路線変更前は、現在の北部巡回ルートとなっている停留所の一部を通り、東部巡回ルートを形成していたため、元々利用していた方が北部巡回ルートに流れた可能性がある。

今回、東部巡回ルートとして路線を伸ばした地域は、市の東側に位置し名古屋市寄りの地域になっている。人の移動が名古屋市の方に流れる傾向があり、こちらの地区は、東部巡回ルートの経路中で移動が完結しないため、利用者数が少ない状況である。

運行曜日を火曜日、金曜日、日曜日とした理由は、限られた予算の中で試行運行のため曜日を限定した。月曜日は、多くの公共施設が休み、水曜日、木曜日は、民間の医療機関において休診が多いため、月曜日、水曜日、木曜日は運行日から外した。日曜日は、休日の市民の移動状況を把握するため、日曜日に走らせたらどうかとご意見をいただいたので、日曜日の運行とした。しかし、運行して2年が経過したので、今後、運行曜日の検討が必要である。

(委員) 今のデータだと人の流れが見えない。1便の乗車の場所と2便降車の場所や3便の乗車の場所と4便の降車の場所を見ると人の流れやニーズが見えるのではないか。また、あま市巡回バスだけでなく、名鉄バスがあま市内には走っているので、その路線の乗降者数の確認をお願いする。

(事務局) 1便の乗車場所から2便の降車場所といった分析も次の会議で説明する。

名鉄バスの路線につきましても、名鉄バスの協力を得ながら、報告できればと思っている。

(座長) あま市の会議は道路運送法に基づく会議であり、活性化再生法に基づくものではないため、基本的にはコミュニティバスを中心に議論することになる。ただ、あま市には名鉄電車、名鉄バスが走っているので、こちらも一緒に考えた方がいいと思う。

(座長) 美和総合福祉センターは非常に利用客が多いが、甚目寺総合福祉センターと何が違うのか。

(事務局) あま市内には、美和総合福祉センターすみれの里、七宝総合福祉センター、甚目寺総合福祉会館といった高齢者が集う施設が3施設ある。

中でもすみれの里と七宝総合福祉センターは、バスを使った利用者数が多く、バスに乗車して施設を利用している人も多い。甚目寺総合福祉会館も利用者数は多いが、バスを利用しているかどうかの実績が把握できない。

(座長) 七宝と美和は総合福祉センターという名前で、甚目寺は総合福祉会館という名前だが、七宝と美和総合福祉センターと甚目寺総合福祉会館の施設のつくりは一緒なのか。

(事務局) 施設のつくりは同じようなもの。名称は旧町の名称を引き継いでいる

ため、統一されていない。

- (座 長) 施設の内容としては一緒なので、もっと利用してもらっていいはず。東部巡回ルートの利用が少し低迷している理由の1つかもしれない。東側はまちがコンパクトなので、歩いて行かれる方や自転車の方が多いのかもしれない。市民病院はほとんど利用がないが、市民病院のバスが出ているからか。それだと市の巡回バスは期待されていないことになる。全体結果を見て気になるのは、乗車と降車で大きく差があるところがある。
- (事務局) 乗ったのに降りていない停留所があるので、分析が必要。
- (委 員) 必ずしも行きも帰りも巡回バスで行ってもらえればいい訳ではない。片道はタクシーを使っただけでもいいと思うが、自家用車での送迎ならば、少し困ったことなので、検証してほしい。
- (委 員) 市役所を利用した人がすみれの里から乗車する場合もあり、近いバス停からの移動もかなりあるはずなので、そういった分析も今後の参考にしていきたい。

(2) あま市巡回バスのあり方を定める指標の決定について

- (委 員) 公共交通の認知度は重要な指標項目だが、公共交通の認知度とするのか、巡回バスの認知度とするのか、整理が必要。名鉄バス、タクシーも公共交通なので、それを含めた指標項目とするのか。想定利用者の中の高齢者数と高齢化率は、高齢者の利用者数、利用者に占める高齢者の割合といった指標にするのか。中部運輸局でも、評価指標をいろいろ調査して、冊子にしたものがあるので、あま市独自の地域実用も考慮しながらそちらも参考にしてほしい。
- (事務局) ここに挙げた認知度は、巡回バスの認知度。前回のアンケートでも、巡回バスの認知度を確認しており、比較するため、今回の認知度についても、同様に巡回バスの認知度について確認したい。また、巡回バスは高齢者等、移動に困っている方がターゲットであるため、高齢者数、高齢者率の2つの指標を挙げた。また、高齢者数を人数とするのか、高齢者率として割合とするのかについては、この二つの値は当分の間横ばいが続くことが予想され、項目として評価に値するのかといったことも含めて検討していきたい。利用者に占める高齢者の割合については、巡回バス無料乗車券は75歳以上が対象で、無料で乗車された方々の人数は、毎月数値をとっている。その方々の割合は算出できるので、加えてもいいかと考える。運輸局の評価指標も参考にさせていただく。
- (座 長) 無料者率は大変重要な指標だが、目標値となると難しいので、全部が目標ではなく、いくつかは確認指標というものがあってもいいのかもしれない。

- (委員) 高齢者は65歳以上とあるが、地区別の分布はどうなっているか。徳実地区は97世帯あり、そのうちの1割が単身で老人一人暮らしの家庭という現状で、台風21号、24号のときに、避難所等まで巡回バスがまわっていただけかという話が出た。数値を見ると下之森、伊福、鷹居は利用者が1、2人という状況だが、そこにバス停を設けるのか、ルートを見直して路線を広げるかといった議論をしてほしい。
- (事務局) ルート変更した際に、高齢者数と高齢者率を地区別に数値化し、数値が高い地区を通るルートとしております。高齢者の地区別のデータを元に基準に数値化し、指標とすることも検討したが、高齢者単身の世帯、高齢者のみの世帯の数値は、5年に1回の国勢調査でしか、数値を得ることができず、最新の数値を得ることができないので、指標項目として設定するのは難しいと判断した。また、災害時のバスの利用については、風速35m以上や停留所が倒れる恐れがある場合は、運行を取りやめる基準があるので、台風などの災害時にバスを運行して避難所まで行くのは難しい。
- (委員) 将来のあま市巡回バスのあり方を考えるにあたり、指標そのものは重要だが、今後、あま市巡回バスをどうしていくのかが最大の課題。
11月27日に名古屋のタクシー協議会を開催する予定で、タクシーが地域の交通にどういう貢献ができるかを考える予定。需要、利用が少ないところやバスが入れない地域をタクシーがどういうことができるかを、今後自治体の皆様と考える予定をしており、タクシー協議会と連携し、検討の材料としてほしい。
- (座長) まずは巡回バスの検討をするが、情報交換をしながら、バスにこだわることなく、タクシーで上手に市民の方々を運ぶことができれば、それはいいことなので、今後検討の際には参考にしてほしい。
- (委員) 運行事業費に加え、あま市の歳出予算分の運行事業費といった市の支出に対し、運行事業費が何%あるのかが指標として必要。
- (委員) 運行日が火曜日、金曜日、日曜日で、日にちが限定されてしまうと不便。増便等を検討してほしい。
- (座長) 見直しがどこかのタイミングでそうなるのか、またはもっと縮小となるのかはわからないが、もっと走っていた方が使いやすいのではないかということ。毎日走っていれば、もっと巡回バスを頼ってくれる人が増えるかもしれない。また、GISといった地理情報システムは持っているか。それがあれば、バス停から何m以内にどれくらいの人口がいて、人口のどれくらいカバーできて、さらにその中の何%が利用しているかなどが分かる。
- (事務局) 市では持っていないが、国でe-Statという政府統計の総合窓口で、統計GISが確認できるものがある。地域を指定して半径何メートル以内の人口や、路線を一本通した時の半径何メートル以内の人口を出せる

ので、そういったツールも利用して行きたい。

(座 長) e-Stat を使えるなら、きれいにバス停地域という訳にはいかないが、メッシュ人口を元に路線、路線周辺の高齢者人口等々が把握できる。述べの割合は指標の一つになる。そもそも乗らない人達にとって必要性をどう感じられているのかというのが大事。認知度というのはそういう意味か。

(事務局) 利用者以外の方々に対して、この施策をどのように受けとめているかを、施策としての市民の理解というところで測って行きたい。

(座 長) 使用者以外も含めて、市民の方々がどういう風に思われているか、あるいは将来あま市にとって、公共交通がどういう位置づけにあるか意見をいただくということか。

指標は全般的に網羅されている。あとはどこに重きを置いて継続性を判断するか。バス停あるいは一部の経路ごとの判断も必要になってくる。例えば、利用者が少なければ、バス停をなくすといった基準をつくり、全体として見直し、検討するのによっても違ってくる。また、少数の限られた人が本当に必要な場合は、どうするかという判断も出てくる。その時は財政資質の妥当性を検討しなければいけないが、皆さんが納得いくように、さらにブラッシュアップしてほしい。

(3) あま市巡回バス試行運行に関するアンケート（素案）について

(委 員) 問3の「あま市巡回バスを利用することがありますか」の中で、日常的と一度もバスを利用したことがないという2つに分かれてしまっていて、数回利用したことがあるという項目があると選びやすい。問10の「①運行日を増やす」と、「④既存の運行曜日を見直す」のは、どう違うのか。

(事務局) 3ページの間3「あま市巡回バスを利用することがありますか」の中で、回答に数回程度利用したことがある方が回答する項目がないので、項目を追加すると選択しやすいのでは。問10の「あま市巡回バスをより多くの市民の皆様にご利用していただくため、どのような対策を行うべきだと思いますか」という問いで、「①運行日を増やす」と「④既存の運行曜日を見直す」という二つの問いの違いは、①の運行日を増やすというのは既存の火曜日、金曜日、日曜日に新たに加えるということで、④の既存の運行曜日を見直すというのは現状の週3日を基本として、曜日を変更するということだったが、①と④の表現の見直しをする。

(座 長) 問3は頻度と時期の二つが回答に入っており混乱しやすいので、頻度と時期は別で質問した方がいいかもしれない。

(委 員) 1ページの外出については、買い物、趣味、娯楽の項目があるが、分けた方がよい。問10の(1)運行方法についての中に「⑦運賃を下げる」とあるが、問9は選択になっている。この二つを1つの設問として、

運賃はいくらにしたらいいか記入する方がわかりやすい。

(事務局) 1 ページの項目の買い物、趣味、娯楽を分けることは、事務局で協議し、次回お示しする。

問9と問10が重複しているのではないかとということだが、問9は、あくまで運賃体系をどうあるべきか聞く項目などで、問10は、より多く使ってもらうために、どうすべきかを聞く項目なので、問9と問10とも残したい。

(座長) 問9と問10では少し意味が違うので、ご理解いただきたい。

1 ページの問1の項目の買い物、趣味、娯楽は、一般的なアンケートでは分かれている。目的で分けてしまった方がよい。

(委員) アンケート冒頭の市長名の部分は直筆にすると回収率が高くなる傾向があるので、検討してほしい。

(委員) 資料2で巡回バスの目的が高齢者の移動のためと書かれているが、冒頭に書くとよい。アンケートの無作為3,000人とは別に、65歳以上の方にアンケートをしたらどうか。8ページの問11あま市巡回バスの運行について利用する目的地というのは、巡回バスを使って行きたい場所なので、目的地と目的が対になるような回答欄にしてはどうか。

(座長) 高齢者対象のアンケートも重要なので、検討してほしい。今回のアンケートの冒頭には、高齢者等の日常生活を支えることを目的として試行運行を行っている、と、しっかり明記してほしい。

(委員) 資料3の6ページにある問9の確認だが、全て無料に丸がついた場合どうするのか。

(事務局) 全て無料とすると、巡回バスのあり方を見直すことになる。前回のアンケートでは利用者負担はそれ相応にすべきと考える方が多く見えた。現在、75歳以上の方は無料だが、有料でも良いという声もある。この結果を元にすぐに料金体系を見直す訳ではなく、今の時点でどう考えているかを前回のアンケートを含めて比較、検討したいので、この問いはそのまま残したい。

(委員) 前回のアンケートの回答率はどのくらいか。

(事務局) 40%弱であった。

(座長) 今回は市民アンケートなので、利用者の声は十分に聞けないが、利用者対象のアンケートはやらないのか。

(事務局) 利用者対象のアンケートはバスの中に常時設置しているが、安全上の問題から筆記具はバス内に設置することが出来ないため、アンケート用紙を持ち帰って回答して頂いていただいているため、回答数は少ない状況。

(座長) 利用者の声が基本なので、そこも聞いてもらうとよい。ドライバーさんに配ってもらい、返信用封筒が入っていれば回答してくれると思う。資料3の9ページにある年齢は、65歳未満、65歳以上、75歳以上とい

う選択肢を作るとよい。

今のアンケートだと、運賃だけ聞いているので、どれくらいなら乗りたいと思うか、運行があったらいいと思う曜日に丸をつけてくださいといった運行曜日や運行本数等も聞くとよい。理想と現実のギャップが見えてくるので、そういったことも材料の1つとなる。

【その他】

(事務局) あま市内へ稲沢市のコミュニティバスの経路の一部が乗り入れることとなる。「稲沢市コミュニティバス運行事業計画」変更(案)は、平成30年10月18日付けで稲沢市地域公共交通会議を担当している稲沢市市長公室地域協働課より、あま市地域公共交通会議への報告事項としてご依頼を受けたもの。稲沢市では、平成31年4月1日から新しい路線の運行を開始するため、「稲沢市コミュニティバス運行事業計画」の協議を行っている。同計画変更において、利用者の利便性向上を図るとともに、安全な運行を行うため、運行経路の一部をあま市内へ乗り入れる検討を行っている。資料の右下の地図上に小さい赤枠で囲われているところが、今回あま市内へ乗り入れる箇所。停留所の設置の予定は無く、経路としてコミュニティバスが通過することとなる。車両はトヨタハイエースGL。運行日は、月～金曜日で祝日及びはだか祭開催日は除く。運行便数は、1日9便を予定しているとのこと。

(稲沢市) コミュニティバス接続便というのは、指定のコミュニティバス接続乗り場から指定されたバス停留所までを結ぶ予約型のバスのこと。資料内の赤枠の近くの中ノ庄から大里西市民センターを結ぶ接続便であり、常時運行するものではなく、予約があったときのみ運行する接続便。

○ 次回の開催は12月の予定。後日連絡する。(各委員了承。)